

ブロック インク(SQ) (旧スクエア)

【セクター】 電子決済

【市場】 NYSE

【企業概要】

ツイッターの創業者の1人であるジャック・ドーシー氏が2009年に設立したフィンテック企業です。創業事業のスクエア・エコシステムは、販売事業者スマートフォンに接続するカードリーダーを提供し、クレジットカード決済などを簡単に利用できるようにするサービスが主力です。キャッシュアップ・エコシステムは、スマホの「Cash App」アプリによって個人間送金や株式売買、ビットコインの取引サービスを提供しています。オーストラリアの後払い決済企業のAfterPayを2022年1月に買収しました。

【業績】 (単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース)

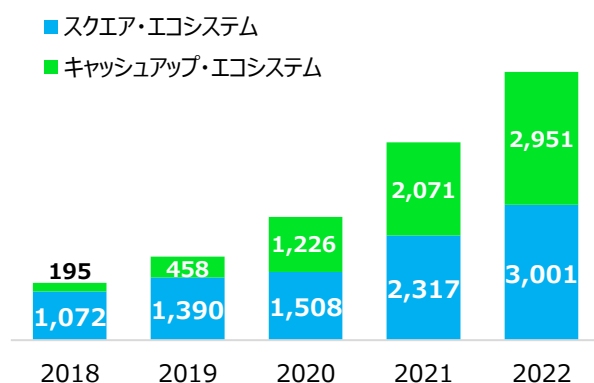
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
21.12期	17,661	241	0.48	0.00	7.0	5.6	23.8
22.12期	17,532	-409	-0.71	0.00	28.7	-5.3	55.0
23.12期 (予)	20,452	886	1.67	0.00	29.5	2.0	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

(出所) BloombergのデータよりSBI証券作成

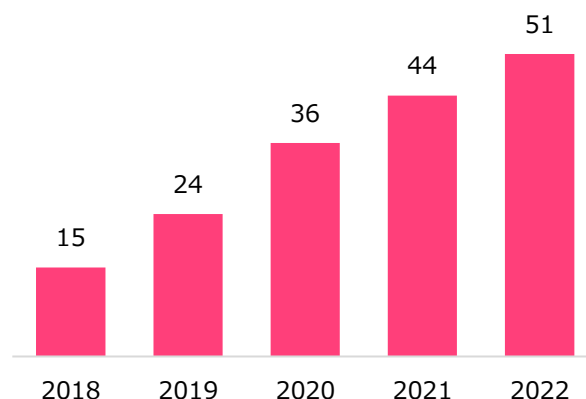
【主要指標】

粗利益の推移 (百万ドル)



(出所) 会社資料よりSBI証券作成、売却したCaviarを除いたベース

Cash Appの月間アクティブユーザー数 (百万人)



(出所) 会社資料よりSBI証券が作成、各年12月のデータ

【会社の見方】

スクエア・エコシステムは当初、街中の飲食店など小規模な販売事業者が対象でしたが、より大きな販売事業者顧客を拡大しています。2023年1-3月期には年間12.5万ドルよりも多くの取扱高がある「比較的大規模」な販売事業者が全体の取扱高の68%を占めます。キャッシュアップ・エコシステムでは、個人間の送金機能のみならず、株式やビットコインの購入機能を新たに導入するなど、「総合的な金融サービス」の提供を目指しています。同事業はパンデミックによる消費者の行動変化で2020年から2021年前半にかけて伸び、その後は反動で停滞、2022年後半から徐々に伸びを取り戻しつつあります。

【見通し・注目点】

1-3月期は、売上が前年同期比26%増、粗利は同32%増、調整後EBITDA (利払い、税金、償却費前利益) は同89%増でいずれも市場予想を上回りました。粗利はキャッシュアップ・エコシステムが前年同期比49%増、スクエア・エコシステムが同16%増と両部門とも堅調でした。「Cash App」の月間アクティブユーザー数は53百万人と順調に伸びています。同社の株価は3月下旬にヒンデングブルグ・リサーチが「利用者数を水増している」とのレポートを出して急落、その後は低迷しています。ただ、業績は改善基調で、アナリストの目標株価平均も90.73ドル (5月5日時点) と現在値を大きく上回ります。

本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。